



(社)北海道建築士会創立60周年
第37回 (社)北海道建築士会全道
大会(函館・桧山大会) A分科会
に参加して

函館支部 岩崎 美乃

函館には特徴ある下見板張りの古い建築物が多く残っていて、住宅や店舗として建てられ、擬洋風の佇まいは現在も存在感があります。そのような建物から素材としての「木材」を取り上げ、地場木材の活用状況や古い建築の保全と修復のための工夫、維持管理の方法などを学び、過去の木材の使用方法和現在の木材の状況をつなげる事により、建物やまちを再生する道があるか探りたいというテーマに地元の私はワクワクしながら参加しました。

司会は新海直美さん、コーディネーターは金子ゆかりさん、パネラーの渡島総合振興局産業振興部林務課長喜多紀章氏より地場木材活用の2つのメリット、(株)ハルキ鈴木正樹氏より4つの杉の良さや木育マイスター、建築士会小池かおるさんより木材の使用例等、三人にお話していただきました。パネルディスカッションでは突っ込んだお話も聞けて良かったです。



道南杉を外壁に使いたい、準不燃材の開発は？杉花粉のアレルギーは？などの具体的な質疑もありました。

道南杉を使うことにより循環型の社会を目指すというお話に共感し行政～メーカー～施工者～エンドユーザー～その仕組みが確立されることを心待ちし、私も一歩進みたいと思いました。

『全国大会【茨城】』報告

札幌支部 東 道尾

連合会女性委員会は本年度より全国女性建築士連絡協議会(以下、全建女)が隔年開催となり、今年是全国大会の交流セッションを担当することになりました。

テーマは「東日本大震災に思う、女性建築士の視点から～リスクの認識・共有・対策～」。2月の全建女に引き続き、東日本大震災を取り上げました。前半は東北3県と関東3県から「被災状況の報告」。



＊岩手県 小山田女性委員長より、「花咲プロジェクトからみてきたことそしてこれから」：数ヶ所の仮設住宅に3回プランターの花を届け、継続した活動により顔見知りになったことなどで見えてきたことなどを報告。

＊宮城県 清本女性部会長より、「被災地視察から全国の仲間とつながる」：『この現状を見てほしい!』との思いで他県からの被災地視察受け入れに関わったことなどを報告。

＊福島県 鈴木女性委員長より、「福島の現状と除染の状況」：はかどらない除染作業の状況について報告。

＊関東(茨城、栃木、千葉) 3県を代表して千葉県 の度会女性委員長より、「東日本大震災・関東の被災状況について」：津波と液状化による被害について膨大な写真を使って報告。東北とは違った被害の様子に会場からは大きなため息がもれていました。

後半のパネルディスカッションでは茨城県の阿久津女性委員長、栃木県の秋澤女性委員長が加わり、①報告の補足 ②支援の課題 ③弱者に対する支援と福祉避難所について ④女性委員会としての支援のあり方について～6県のパネラーよりお話しいただきました。

限られた時間のなかで実際の支援の様子や今後の課題など、今後も継続的に関わっていくべき道筋が見えるようなセッションになりました。当日は会場の椅子が足りなくなるほどの盛況で、200名ほどの参加者が最後まで熱心に耳を傾けてくださいました。

- 来年は7月13、14日に東京で全建女が開催されます。皆様、是非ご参加ください。

